

Slovenia Monthly April 2024

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2024年5月16日



～4月の主なポイント～

内 政：各党による欧州議会選挙の候補者リスト発表、国民投票と欧州選挙同日実施決定

外 政：ファヨン外相の訪日及び訪中

経 済：安川電機の新工場鍍入れ式実施

政治

【内政】

●デジタル技術におけるスロベニア語義務化法案が可決【2日】

国民議会は、国内で電子消費者機器を販売するメーカーにスロベニア語のOSを義務付ける法案を全会一致で可決した。アップル社を筆頭とする一部のハイテク大手が、自社のデバイスで提供する言語の中にスロベニア語を含めなかったことを受けたものである。大手自動車メーカーに対しても同様の規定が適応される。

●政府公式サイトへのサイバー攻撃【3日】

3日、政府通信局(UKOM)がSTAに伝えたところによると、イースター休暇中、デジタル変革省が管理する一部のウェブサイトへのアクセスが時折妨害された。しかし、サイバー攻撃によるデータの盗難はなかった。

10日、再び複数のウェブサイトへのアクセス不具合が報告された。大統領府、中央銀行、政府メインポータルウェブサイトへのアクセスがブロックされた。

11日、ヴォウク首相府副大臣は、スロベニアが再び分散型サービス妨害(DDoS)攻撃の標的になったことを確認した。

●世論調査、政府への評価が上昇【8日、15日】

デロ紙が発表した最新の世論調査(4月)で、数か月間低下傾向にあった政府支持率が上昇した。与党自由運動党(GS)は、野党民主党(SDS; 23%)に次いで15%で2位を維持している。左派党の支持率が最も落ち込み、4.4%から2.9%となった。政府の仕

事ぶりを肯定的に見る人の割合は16%に上昇し、「まあまあ良い仕事をしている」と答えた人の割合は30%に上昇した。政府の仕事を否定的に見る人の割合は51%に下がった。

15日、ドネウニク紙の世論調査によると、過去数か月に渡り低下していたゴロブ政権への支持率が底を打った。政府の仕事への不支持の割合は65%(3月から5ポイント以上減)、支持は30%であった。SDSが22.3%(3月23.1%)で首位を堅持し、GSが15.4%(3月14.1%)で2位。

●一般政府赤字、2027年には2%を下回る計画【10日】

政府は、今後3年間の一般政府部門予算編成の枠組みに関する政令を採択した。一般政府の赤字は基準値であるGDP比3%を下回り、2027年までにGDP比1.9%まで削減される。財務省は、洪水後の復興努力を含め、公共支出は高水準で維持されると述べた。

●SDS、KGZS 法の一部無効を理由に農相に辞任要求【12日】

野党民主党(SDS)は、チャルシッチ農業大臣が昨年議員として着手した農林業会議所(KGZS)法の改正案について、今般、憲法裁判所が、同改正は法の下での平等原則に違反しているとして一部を無効にしたことを受けて、同農相に対し辞任もしくは解任を求めた。本件辞任要求には野党新スロベニア(NSi)も参加している。同大臣は裁判所の決定を尊重するが、辞任は考えていないとしている。

●ハーン経済相が社会民主党党首に選出【14日】

13日夜の党大会で、ハーン経済相が182対172の僅差でミラン・ブルグレス欧州議会議員を破り、社会民主党(SD)党首に選出された。

●世論調査によればスロベニア人はパレスチナ承認を支持【17日】

ドネウニク紙の世論調査によれば、スロベニアがパレスチナを独立国家として承認する場合について、57.4%が支持するとした。調査対象者の20%強が反対しており、22.4%が「分からない」と回答した。パレスチナ承認に賛成する人の62%近くが、スロベニアはできるだけ早くパレスチナを承認すべきだと述べた。37%強が国際情勢が良好なときにこれを行うべきだと考えており、1.2%は分からないとした。

●3つの国民投票実施【18日、25日】

18日、国民議会は、総選挙における優先投票、幫助死及び大麻規制に関する諮問的国民投票の動議を可決した。

25日、国民議会は、上記の国民投票を、欧州議会選挙と並行して6月9日に実施することを決定した。与党自由運動党(GS)主導の本提案は、野党が反対票を投じ、連立与党の社会民主党(SD)が棄権したものの、同じく連立与党の左派党は支持したため、可決された。

●改革エネルギー法案が可決・成立【23日】

国民議会は、53対30の賛成多数で改革エネルギー法案を可決した。野党は同法案を天然ガスと薪の燃焼に関する条項を中心に欧州議会選挙に向けて争点化していた。同法案は、化石燃料からの脱却に向けたインセンティブと制限を規定し、国のエネルギー政策の枠組みを定める。

●警察がDARS汚職に関して家宅捜索を実施【23日】

警察は、国营高速道路管理会社DARSの数か所とハイディニャク前会長の自宅、スネジッチ税務顧問の自宅で23件の家宅捜索を行った。6人が職権乱用、贈収賄の疑いをかけられている。

●エネルギー危機緩和のための改正法が可決・成立【23日】

国民議会は、エネルギー危機に伴う企業への支援に関する法律の改正案を全会一致で可決した。企業への支払期限を延長し、また、2023年・2024年の企業基金への割当額も明確になった。

●政府、新たな防衛戦略を承認【24日】

政府は、新たな防衛戦略、軍事および民間防衛に関する2つの付随文書という3つの新たな戦略文書を

採択した。これらの文書は、ロシアによるウクライナ攻撃によってもたらされた新たな安全保障上の課題を考慮したものであると政府は発表した。国防省によると、新文書は新たな財政負担を伴うものではなく、2030年までに国防支出をGDPの2%に引き上げること、軍事資金の20%を主要な軍事装備に投資することなど、スロベニアが国防において有する既存の国際公約を基礎としている。

●国民議会在2025～2027年の予算枠組みを承認【25日】

国民議会は政府の今後3年間の予算枠組みを承認した。野党議員らは公共支出の増加を批判し、EU財政規則の今後の見直しを考慮するとこの予算枠組みは無意味だと主張した。本計画によれば、来年の一般政府赤字はGDPの2.7%、2026年には2.5%、2027年には1.9%となる見込み。

●国民投票案件に対する野党の動き【26日】

野党民主党(SDS)と新スロベニア(NSi)は、6月9日の欧州議会選挙と並行して実施される予定の3つの国民投票のうち、2つの国民投票について憲法裁判所の手続きを開始した。幫助死については人命の不可侵性に関する憲法規定に違反していること、大麻使用は手続き上の理由からである。最終的な判断が出るまでは国民投票の政令の手続きは停止されることとなる。

●タバコの物品税引上げ【26日】

国民議会は、タバコ・タバコ製品の物品税を引き上げ、未加工のタバコや製造に用いる潤滑油に対するより厳しい規制を導入する物品税法の改正を可決した。同改正は6月に施行され、税率は紙タバコで約3%、電子タバコで150%、加熱式タバコは3分の1以上引き上げられ、近隣諸国と同等になる。これにより本年の物品税収入は約1,100万ユーロ増加する予定である。

●国民議会、公共部門給与の3.36%引き上げを承認【26日】

国民議会は、公共部門の給与制度の変更を賛成63票、反対0票で可決した。労働組合との合意に基づき、公共部門の給与をインフレ率と連動させ、6月に3.36%引き上げる。

●R&D投資に対する国の優遇措置引き上げ【26日】

政府は、研究開発および技術革新への投資に対する国家インセンティブの上限値を引き上げ、国家補助に関する国内規定を2023年のEU規則改正に適合させる政令を採択した。主に基礎研究への投資に

に関して、上限額は1社あたり4,000万ユーロであったところ、5,500万ユーロに引き上げられた。

●起業家育成に約1,300万ユーロを確保【26日】

結束・地域開発省は、欧州地域開発基金から、起業アイデアを持つ個人を対象とした4か月間のトレーニングコースを提供する12の全国規模のプロジェクトに対し、総額1,290万ユーロを承認した。この制度は、欧州結束政策プログラム2021-2027の下で実施される。

●石炭火力発電所の早期閉鎖の可能性【28日】

ゴロブ首相は、赤字の石炭火力発電所TEŠは、石炭段階的廃止が予定されている2033年までの予定を早め、3年以内に閉鎖される可能性があるとして述べた。TEŠは今後も赤字が予想され、その親会社HSEは経営決定の基礎となる分析を本年後半に完了する予定である。TEŠで唯一フル稼働している6号機は、2014年に運転開始され、寿命は40年である。排出権価格が上昇し、EUがグリーン・トランジションを進める中、石炭で発電された電力は経済的にも環境的にもはや成り立たなくなっている。

【欧州議会選挙関連】

●人民党(SLS)、欧州議会選挙候補者を発表【5日】

非議会の人民党(SLS)が欧州議会選挙の候補者リストを発表した。候補者トップはRTVスロベニア番組審議会の前議長グレゴルチッチ氏で、党首のバラジッチ氏等が名を連ねた。

●GS、欧州委員候補にトマジュ・ヴェセル氏を選出【6日、8日】

6日、与党自由運動党(GS)は、元会計検査院院長のトマジュ・ヴェセル氏をスロベニアの欧州委員候補として擁立した。GSの閣僚が過半数を占めていることから、この提案は政府によって承認される可能性が高い。

8日の報道によると、GSの連立パートナーは、ヴェセル氏をスロベニアの欧州委員候補に選出するという同党の決定をメディアから知った。左派党は同氏を良い候補者と見ているが、この問題は今後の連立与党会議で議論される見込み。社会民主党(SD)は、欧州議会選挙後に独自の候補者を擁立する可能性がある。

●NSi、欧州議会選挙に向けた綱領を採択【6日】

野党新スロベニア(NSi)は、欧州議会選挙に向けた綱領を採択した。同綱領は、グリーン・トランジション、EUの農業補助金、不法移民などの問題に焦点を当て、投資家にとって魅力的であり続ける社会的市場経済の価値観に基づく欧州の実現を訴えている。

●ヴェスナ党の欧州議会選挙候補者リストを公表【8日、22日】

8日、非議会政党のヴェスナ党(緑の党系列)は、6月の欧州議会選挙に向けたマニフェストと候補者リストを発表した。コチェウイェ市長で防衛専門家のプレブリッチ氏を筆頭に、ウルシャ・ズゴイズニク氏、ウロシュ・マセルル氏の両党首が候補者として名を連ねる。同党のマニフェストは、公正な緑の移行、住宅政策、社会正義、農業、食料、環境、機会均等に重点を置いている。目標は1議席獲得。

22日、同党は、1,680人を超える有権者の署名を集め、候補者リストを正式に提出した。

●ユーロバロメーターはスロベニア人の62%が欧州議会選挙で投票すると示唆【17日】

スロベニアの有権者の約62%が、欧州議会選挙が仮に来週行われるとすれば、投票する可能性が高いとしており、これは2019年のEU選挙前よりも10ポイント高いものの、依然としてEU平均を下回っていることが最新のユーロバロメーター世論調査で示唆されている。

●DeSUSとGood State、共同候補者を発表【18日】

非議会政党の年金者党(DeSUS)とGood State党は、76歳の元RTVスロベニア特派員リプシュチェク氏を筆頭とする欧州議会選挙の共同候補者リストを発表した。スロベニアのNATO加盟に関する国民投票を希望し、1議席獲得を狙う。

●GSの欧州議会選挙候補者リストが決定【22日】

与党GSの評議会は、欧州議会選挙の同党の候補者リストを全会一致で承認した。候補者リストのトップはイレーナ・ヨヴェヴァ現欧州議員となっており、右は驚きをもって迎えられた。今月初めに最有力候補として噂されていた医師のアレクサンデル・メルロ氏は立候補しないことを決定し、ユレ・レーベン元環境大臣も候補者に加えられた。ヨヴェヴァ議員は、党が現在と同数(2人)以上の議席を獲得すれば成功であろうと述べた。

●左派党の候補者【23日】

左派党(LEFT)はスキッチ国民議会議員を筆頭とする欧州議会選挙候補者リストを支持した。最下位にメセツ労働大臣もリストに含まれている。左派党は欧州議員を擁しない唯一の議会政党で、ヴレチュコ党首は1議席を狙うと述べた。

●SDが欧州議会選挙の候補者リストを決定【25日】

社会民主党(SD)は欧州議会選挙の候補者を承認し、現欧州議会議員であるネメツ氏とブルグレズ氏を

それぞれ候補者のトップと最下位に据えた。ファヨン外相は候補者リストには含まれていない。

●世論調査: SDSが欧州議会議員数を倍増へ【27日】

欧州議会選について民間放送局POP TVが発表した最新の世論調査によると、民主党(SDS)が9議席のうち4議席(2議席増)を獲得し、自由運動党(GS)が2議席、新スロベニア(NSi)、非議会のヴェスナ党、社会民主党(SD)がそれぞれ1議席を獲得する。本調査によれば、GSとNSiの議席数は変わらないが、SDは1議席減となる。

【外政・EU・防衛等】

●スロベニア、外交使節団に対するすべての攻撃を非難【3日】

ジュボガル安保理担当代表は、イスラエルによるダマスカスのイラン領事館への攻撃を受けて、2日に開かれた国連安全保障理事会の緊急会合で、スロベニアは外交使節団に対するすべての攻撃を非難すると述べた。また、地域の緊張を緩和するため、ガザでの即時停戦を要求する安保理決議の尊重と、すべての当事者が自制を示し、国連憲章、特に紛争の平和的解決に関する第2条を尊重するよう求めた。

●ファヨン外相のNATO外相会合出席【4日】

ファヨン外相はNATO外相会合に出席し、ウクライナへの持続可能な長期支援を支持したと述べた。また、ファヨン外相は、プリンケン米務長官とも会談し、中東、ウクライナ、7月のNATO首脳会合の準備、スロベニアと米国の戦略対話を改善する方法について話し合った。

●パレスチナのため食糧支援を拡大【6日】

国防省は、パレスチナ市民を支援するため追加の食糧援助を送ったと発表した。スロベニア赤十字とカリタススロベニアが提供したベビーフードも含まれ、ヨルダンを管轄する在エジプト・スロベニア大使館によると、約33トンの援助物資はすでにヨルダンに到着しており、これからガザに輸送される。

●ピルツ＝ムサル大統領のギリシャ訪問【8日】

8日、ピルツ＝ムサル大統領は、サケラポル・ギリシャ大統領と会談を行い、政治・経済両面におけるスロベニアとギリシャの緊密な協力を促した。また、両大統領は、国連安保理での協力に関連して、ガザとウクライナにおける和平努力、武力紛争における女性と子供の保護、気候・水外交における協力、キプロス問題についての緊密な協力を促した。同日、ピルツ＝ムサル大統領は、二国間関係強化への尽力に対

し、贖罪大十字勲章(Grand Cross of the Order of the Redeemer)を授与された。

●スロベニア、ハンガリー及びセルビアによるエネルギープロジェクト【9日】

スロベニア、ハンガリー及びセルビアは、ブダペストにおいてエネルギー協力を強化するためのパートナーシップ協定に署名した。環境・気候・エネルギー省は、共同で行う「ブルースカイプロジェクト」により、地域の電力取引の新たな基盤が確立され、より良い市場統合が確保され、エネルギー安全保障が強化され、経済発展が促進されることが期待されると述べた。現在、3か国すべてが地域の電力取引所 Adex に参加している。

●プーチン大統領の同盟者ヴィクトル・ズブコフ氏がスロベニアを訪問と報道【9日】

数日前、元ロシア首相でプーチン大統領の緊密な同盟者であるヴィクトル・ズブコフ氏がスロベニアを訪問したとニュースポータルNecenzuriranoが報じた。ガスプロムの会長を長年務めた同氏の訪問は駐スロベニア露大使館が調整したと伝えられているが、同氏の予定の詳細は明らかにされていない。ズブコフ氏は英国ではブラックリストに載っているが、米国やEUではブラックリストに載っていない。

●スロベニア、フィリピンに大使館を開設【9日】

スロベニアは数日以内にフィリピンに大使館を開設し、ドラガン・バルブトウスキ外務省戦略コミュニケーション部長が臨時代理大使に就任するとデロ紙が報じた。同氏は、大使が選出されてマニラに赴任するまで臨時代理大使を務めることになっている。

●スロベニアがユニセフ理事会メンバーに選出【9日】

スロベニアは、来年1月から3年間の任期で国連児童基金(ユニセフ)理事会のメンバーに選出された。理事会は36の国連加盟国で構成され、議席数は国連の地域区分に従って配分される。

●パホル前大統領、ベオグラード・プリシュティナ対話担当特別代表ポストに関心【10日】

パホル前大統領は、8月に任期満了を迎えるライチャーク氏の後任として、次期EUベオグラード・プリシュティナ対話担当特別代表に就任する意向であることを明らかにした。ゴロブ首相は支持する意向を表明し、すでにこのひと月の間、EU関係者と何度も会談している。特別代表ポストはEU外務・安全保障政策上級代表によって指名され、最終決定は欧州理事会が行う。

●スロベニア、ロシアによる北朝鮮決議案に対する拒否権に遺憾の意【11日】

国連総会での討論で、マロブルフ国連大使は、スロベニアは対北朝鮮制裁の実施を監視する専門家パネルの任務延長に関する決議案にロシアが拒否権を行使したことに深い遺憾の意を表明すると述べた。

●ロシアがスロベニア外交官にペルソナ・ノン・グラータを通告【12日】

ロシア外務省は、スロベニアが先月駐スロベニア・ロシア人外交官をペルソナ・ノン・グラータとして追放したことを受け、ロシアはモスクワのスロベニア大使館に勤務するスロベニア人外交官1名をペルソナ・ノン・グラータと宣言したと発表した。

●ファヨン外相の訪日【15日、16日】

15日、ファヨン外相は日本を訪問し、上川陽子外相と会談した。両外相は、二国間関係と、両国が非常任理事国を務める国連安全保障理事会における協力について話し合った。また、ガザ紛争、イランのイスラエル攻撃、ロシアのウクライナ侵略、西バルカン情勢についても話し合われた。ファヨン外相は、ビジネスと科学における協力をさらに強化するよう呼びかけ、慶應大学では科学とイノベーションについて講演を行った。

16日、ファヨン外相は、岩田経産副大臣及び経団連の代表者と会談し、2日間の日本公式訪問を終えた。グリーン水素に焦点を当てた経済・科学協力を促進する機会が議題の上位を占めた。

●連立与党のパレスチナ独立支持表明【15日】

ゴロブ首相と連立与党の各政党は、16日のスペインのサンチェス首相のスロベニア訪問を前に、パレスチナ国家承認への支持を改めて表明した。サンチェス首相は、スペイン、スロベニア、アイルランド、マルタが最近立ち上げた承認イニシアチブへの支持を求めてヨーロッパを歴訪中である。野党新スロベニア(NSi)は現時点では承認が有益だとは考えておらず、野党民主党(SDS)は終始この案に反対している。

●ピルツ＝ムサル大統領のコソボ訪問【15日、16日】

15日及び16日、ピルツ＝ムサル大統領はコソボを初めて訪問し、オスマニ・コソボ大統領との会談で、スロベニアは、欧州評議会を含む欧州統合への道を歩むコソボを強く支持し、コソボとEUの協力関係の継続的強化が強く求められていると述べた。また、ピルツ＝ムサル大統領は、ベガイ・アルバニア大統領と会談し、WPS(女性、平和、安全保障)フォーラムに出席したほか、KFORに勤務するスロベニア兵を訪問した。

●スーダンに50万ユーロを拠出【15日】

スロベニアは、戦争で荒廃したスーダンのためにドナー国が20億ユーロの追加拠出を約束したパリでの会合で、50万ユーロを追加拠出することを約束した。2024年から2026年までの期間に赤十字国際委員会を通じて拠出する。

●スロベニア、EU太陽エネルギー憲章の加盟国に【15日】

クメル環境・気候・エネルギー相は、ブリュッセルで開かれた非公式会合で、EUエネルギー担当閣僚23人と欧州の太陽エネルギー分野の企業約100社の代表者の一員として、EU太陽エネルギー憲章に署名した。署名者は、太陽エネルギー生産を支援することを約束し、EU加盟国政府は同憲章への署名を通じ、戦略的サプライチェーンにおける太陽光発電分野の企業の重要な役割を認識した。

●サンチェス・スペイン首相のスロベニア訪問【16日】

16日、サンチェス・スペイン首相はスロベニアを訪問し、ゴロブ首相と会談を行った。会談では、パレスチナの国際的な承認が主な議題となり、承認のタイムラインについては語られなかったが、ガザの困難な状況について言及した。また、両首相は、二国間関係を賞賛し、関係深化と経済協力強化のため、9月または10月にスペインで両国政府の合同会議を開催する可能性があるとして発表した。

●イスラエル渡航中止勧告【16日】

スロベニア外務省は、スロベニア国民に対し、同地域の治安情勢を理由にイスラエルへの渡航を控えるよう勧告した。

●ファヨン外相の訪中【17日、18日、19日、20日】

17日、ファヨン外相は中国を訪問し、王毅外相と会談した。ファヨン外相は、国際の平和と安全を維持するためには、国連憲章と国際法に沿って政治的解決策が模索されなければならないと述べた。外務省によると、両外相は二国間関係、多国間フォーラム内での協力、世界共通の課題への答えを探す方法について話し合った。

18日、ファヨン外相は、スロベニアは中国と建設的な方法で対話する必要があると述べた。ファヨン外相と王毅外相は、ガザの平和を達成する必要があることで合意し、ファヨン外相は台湾海峡の現状維持の重要性にも言及した。

19日、ファヨン外相は上海でビジネスフォーラムを開き、71人のスロベニア経済代表団と100社以上の中国企業の代表が出席した。また、上海市長と会談

し、スロベニア人建築家ヨジェ・プレチュニクの展覧会を開催した。

20日、ファヨン外相は、ブレッド戦略フォーラム(BSF)とシンクタンクの中国とグローバルイノベーションセンターが主催するラウンドテーブルに出席し、4日間の中国訪問を終えた。

●スロベニアとモンテネグロ、防衛協定に署名【18日】

シャレツ国防相とクラポビッチ・モンテネグロ国防相は、両国の良好な二国間防衛協力に資するものとして、モンテネグロ軍への6基の非致死性携帯型防空システムの無償供与に関する協定に調印した。また、両大臣はパホル前スロベニア大統領の次期ベオグラード＝プリシュティナ対話担当EU特別代表への立候補支持を表明した。

●米スロベニア戦略対話【19日】

スロベニアと米国の間の戦略対話グループは第4回会合を開催し、地球規模の安全保障問題や宇宙探査を含む様々な分野での協力について話し合った。各国代表は外国による情報操作に対する措置に関する覚書にも署名した。このグループはまた、ビジネス、エネルギー、国防、サイバーセキュリティ、民主主義と公の議論に脅威をもたらす偽情報との戦いにおける協力についても議論した。

●イラン退避勧告【19日】

外務省は、イラン国内の「深刻な治安状況」を理由に、スロベニア国民にイランから出国するよう促した。同国に滞在するスロベニア国民は、安全な帰国を自分たちで手配するよう求められている。

●ブルトン欧州委員(域内市場担当)のスロベニア訪問【19日】

2日間の日程でスロベニア訪問中のブルトン欧州委員(域内市場担当)はゴロブ首相と会談した。両氏はEUの新たな産業政策、生産性と競争力を強化するための措置、EU域内市場の機会について議論した。ブルトン委員はハーン経済相とも同様のテーマについて議論した。

●「西バルカンの友」第1回会合の開催【19日、20日】

19日及び20日、「西バルカンの友」の第1回会議には、元大統領や高官らが集まり、EUの西バルカンへの拡大について議論した。同シンクタンクの創設者であるパホル前大統領は、西バルカンにおけるEUの拡大に対する楽観的な見方が薄れていると警告し、EUと域内諸国に対し、2030年までに拡大の準備を整えるよう約束するよう求めた。

●スロベニアEU加盟20周年イベント【22日】

ピルツ＝ムサル大統領は、ブルド・プリ・クラニユにおいて、スロベニアのEU加盟20周年を記念するイベントを主催し、EU内の国境開放とEU圏の拡大を訴えた。国境を接するオーストリア、クロアチア、ハンガリー、イタリアの大統領が参加したが、これらの国の大統領が揃うのは、2011年6月にスロベニアが独立20周年式典を開催して以来である。

●駐イスラエル・スロベニア大使の召喚【22日】

ファヨン外相は、パレスチナの国連正式加盟を勧告する決議案に対する採決を巡り、イスラエル外務省が21日にアンドレヤ・プルカルト＝マルティネス駐イスラエル・スロベニア大使を召喚したことを認めた。同外相は、スロベニアはパレスチナは国連加盟国となるためのすべての基準を満たしていると信じており、この加盟がイスラエルの安全保障に対する脅威とは考えていないと述べた。

●スロベニアのグラヴァシュ中將がEU軍事委員会委員長候補に【22日】

ファヨン外相は、スロベニア軍参謀総長のグラヴァシュ中將が、EU理事会内の最高軍事機関であるEU軍事委員会(EUMC)委員長候補の一人であることを認めた。現委員長のオーストリアのブリーガー将軍の後任の決定は5月中旬に予定されている。グラヴァシュ氏は2020年以来参謀総長を務めている。

●アラブ湾岸諸国との安全保障パートナーシップ【23日】

ファヨン外相は、ルクセンブルクで他のEU外相らとともにペルシャ湾アラブ諸国外相と会談し、スロベニアは、EUと湾岸協力会議(GCC)との戦略的安全保障パートナーシップの構築に向け、一歩前進するよう努力すると述べた。

●大統領のモンテネグロ訪問【23日、25日】

23日、ピルツ＝ムサル大統領は、モンテネグロを訪問し、ミラトビッチ・モンテネグロ大統領と会談した。ピルツ＝ムサル大統領は、西バルカンのEUへの統合は欧州全般の安定の重要な要素であるとし、スロベニアはモンテネグロのEU加盟努力を断固として支持すると述べた。

25日、両大統領は、ポドゴリツァでのスロベニア・モンテネグロ・ビジネスフォーラムの開会式に出席した。ピルツ＝ムサル大統領は、過去数年間の経済指標は前向きな傾向を示しているとし、一例として2023年に貿易が14%増加したことを指摘した。

●コチェウイェ市とブチャ市、姉妹都市提携に調印【26日】

スロベニア南部コチェウイェ市はプレスリリースで、ウクライナの都市ブチャと、異なるコミュニティ間のつながりと理解を促進し、世界レベルでの平和と協力に貢献するため、姉妹都市協定に調印したと発表した。両市は10月にEUのU-LEADプログラムの一環として協力協定を締結している。

●パホル前大統領、ベオグラード・プリシュティナ対話要綱を作成中【27日】

パホル前大統領は、EUのベオグラード・プリシュティナ対話担当特使ポストをにらむ活動の一環として、ベオグラードとプリシュティナ間の対話継続のための草案を作成中であるとXに投稿した。同氏は、欧州委ボレル外交・安全保障政策上級代表、EU加盟国、とりわけクイント諸国(米英仏伊独)と概要を調整したいと述べた。

経済・統計

●インボル社、需要減退で生産縮小【2日】

スロベニア最大のアルミニウム完成品・中間製品メーカーであるインボル・グループの2023年の売上高は、前年比20%減の8億8,000万ユーロとなり、計画を若干下回った。継続的な需要減退により減産を行い、同グループの昨年のEBITDA(金利・税金・減価償却費控除前利益)は8,300万ユーロと、計画をわずかに下回った。

●インテザ・サンパオロのスロベニア子会社、30%以上増益【2日】

イタリアのインテザ・サンパオロ銀行のスロベニア子会社は、前年比338%増の7,150万ユーロという記録的な純利益で2023年を終えた。同行の総資産は8%増の39億9,000万ユーロとなり、営業・金融収益は87%増の1億5,420万ユーロとなった。税引前利益は8,790万ユーロであった。

●ルノー、2026年にスロベニアで新モデル生産開始【3日】

フランスの自動車メーカー、ルノーは、ノヴォ・メストにある組立工場レヴォスで、2026年に電気自動車「Twingo」の廉価版の生産を開始する予定であると、ロイター通信が複数の情報筋の話を用いて2日に報じた。ルノーの電気自動車とソフトウェアのスピノフ企業であるアンペールは、4月中に新型トウインゴのエンジニアリング作業を開始し、2年後には量産を開始する計画だという。

●スロベニアの2月の輸出は前年比0.1%減、輸入は28%増【4日】

統計局によると、スロベニアの2月の物の輸出額は前年比0.1%減の45億ユーロとなった一方、輸入額

は同28.4%増の55億ユーロとなり、輸入額の伸びは2022年9月以来最高となった。非EU諸国からの物の輸入が83%近く増加したことが数字を後押しした。一方、加工原料等を除くと、非EU諸国からの輸入は8.5%減少した。

●再生可能資源、eモビリティに対して8,000万ユーロのインセンティブが利用可能【4日】

国有の電力市場運営会社ボルゼンは、本年、再生可能エネルギー源と個人向けの持続可能なモビリティに対する奨励金として12回の募集で合計8,000万ユーロを提供する予定である。

●EU加盟国以外の労働者の割合、1月は15%に【6日】

企業が労働者の確保に苦慮する中、スロベニアにおけるEU加盟国以外の労働者の割合は急速に増加しており、昨年1月には15%に達し、6年間で6.5ポイント上昇した。労働者のほとんどは西バルカン諸国からだが、政府は現在アジアに目を向けており、フィリピン人労働者の雇用促進を期待している。フィリピンとの覚書は今後数週間できまり、雇用と社会保障に関する2つの協定が締結される予定である。

●DHL、リュブリャナ空港近くに新ロジスティクスセンターを開設【10日】

ロジスティクス企業のDHLスロベニアは、ブルニクのリュブリャナ空港近辺に新センターの建設を開始し、配送能力を増強する。この2,100万ユーロの投資は来年完了する予定で、建設はGIC Gradnjeが請負い、同空港運営会社フラポート・スロベニアから賃借した土地に建設される。

●2023年の不動産取引件数は減少、価格の伸びは鈍化【10日】

測量地図庁(GURS)は、スロベニアの不動産価格は昨年も上昇を続けたが、取引件数は2年連続で減少したと述べた。高止まりしている価格の伸びは今年も鈍化する可能性があり、国の一部では価格が下がる可能性もあるが、急激な価格下落は期待できないとの見方を示した。2023年報告書で、販売戸数は、アパートで15%から20%減少、一戸建てで20%から25%減少し、8,000戸のアパートと5,500戸の住宅が売買され、その総額は22億ユーロであった。

●2つの代替燃料プロジェクトがEUの資金援助を獲得【10日】

欧州委員会は、空港運営会社フラポート・スロベニアとエネルギー会社エネジェティカ・リュブリャナによる2件のプロジェクトが、代替燃料インフラストラクチャーに対するEUからの資金援助4億2,400万ユーロ

を受けると発表した。これらのプロジェクトは、電気自動車用の充電ステーションや水素自動車用の燃料補給ステーションを提供し、空港の電氣化に取り組む。

●企業、第三人の労働許可手続きの迅速化を望む【11日】

スロベニアにおける外国人の労働許可取得手続きが長すぎると主張する工芸・中小企業会議所は、2023年8月の洪水後の洪水救援活動のために導入された迅速な手続きを全面的に適用するよう労働省に要請した。OZSは「信頼に基づく採用」について、労働者不足はスロベニア経済にとって大きな問題であり、そのため多くの企業がインド、フィリピン、バングラデシュ、その他ヨーロッパ以外の国から労働者を雇用せざるを得ない状況にあると改めて述べた。

●活動人口数は増加、シェアは減少【11日】

スロベニアの2023年の活動人口は約98万9,000人で、2022年より0.3%増加し、過去10年間で最高の数字となった。しかし、活動人口に占める割合は0.2ポイント低下し、56.4%となった。被雇用者数は横ばい、自営業者数は3.4%増加し、失業者は9%減少した。

●ソーラーパネルに関する新ルール発効【13日】

ソーラーパネルに関する新しい規則が13日に施行された。この規則は、屋根面積が1,000平方メートルを超えるすべての新築建築物に太陽光発電所の設置を義務付けるという、3月28日に承認された政令によって導入される。これらは主に商業ビルや公共インフラであり、住宅ではない。商工会議所は、配電網への圧力や新規則の例外など、多くの疑問が残されていると警告している。

●宇宙技術関連企業が米国でプレゼン【12日】

近年、国の注目すべき宇宙技術分野の発展に貢献してきたスロベニア企業が米コロラド州スプリングスでプレゼンテーションを行い、更に、スロベニア宇宙局、SPIRIT、国防省及び在米スロベニア大使館が主催するロードショーの一環としてデンバーに向けて出発した。この取組みは、革新的な技術や材料を開発する40社を超える中小企業を特徴とする有望な宇宙分野を促進するもので、経済省は、スロベニアと米国の将来の協力を強化する重要なステップの1つであると説明した。

●IMF、スロベニアのGDP成長率予想を2%に引き下げ【16日】

国際通貨基金(IMF)の最新予測では、スロベニアの今年のGDP成長率は2%と予想され、秋の予測に比べ0.2ポイント下方修正された。IMFは、2025年

には成長率が2.5%まで回復すると予想している。今年の平均インフレ率は2.7%と、秋の4.2%から低下し、2025年には2%になると予測されている。スロベニアの経常収支は、2023年10月時点の予測では対GDP比3.8%であったが、2024年には2.7%に引き下げられる。2025年にはさらに2.1%に減少すると予想されている。

●サンドス社、バイオシミラー開発センターの鞆入れ式【19日】

スイスの製薬大手サンドスは、リュブリャナに新しく開設するバイオシミラー開発センターの鞆入れ式を実施し、ゴロブ首相やブルトン欧州委員らが出席した。9,000万ドルの投資により約200人の雇用が創出され、2026年に完成する予定。新センターはサンドス社のバイオシミラーの包括的開発の主要拠点となるとゴースティン同社取締役会長は述べた。

●レヴォス社の昨年の収益は減少、純利益は増加【22日】

仏ルノーのスロベニア子会社レヴォス社は、2023年の売上高が8億2,250万ユーロとなり、2022年の9億3,330万ユーロから減少したが、純利益は470万ユーロから940万ユーロに倍増した。同社は現在、クリオ、トゥインゴ、電気トゥインゴの組み立て製造を行っており、従業員1,400人を雇用し、毎日325台の車両を生産している。

●消費者信頼感、2022年2月以来の高水準【23日】

4月の消費者信頼感度は2022年2月以来の高水準に達し、前3月比で3ポイント、2023年4月比で5ポイント上昇し、昨年の平均を7ポイント上回ったが、2005年から2023年までの長期平均を3ポイント下回った。

●新鉄道サービスがスロベニア経由でイタリアのヴィラ・オピチーナとリエカを結ぶ【23日】

スロベニア鉄道は、トリエステ北部のヴィラ・オピチーナからスロベニアを経由しクロアチアのリエカを往復する新旅客サービスを開始する。9月30日まで毎日運行される。

●クルシュコ原発の核廃棄物処分場、2028年に稼働へ【23日】

放射性廃棄物管理庁は(3月に)スロベニアのエンジニアリング会社リコが率いるコンソーシアムとの契約に調印し、クルシュコ近郊の新しい放射性廃棄物処分場の建設工事は5月に開始され、2027年に試運転を開始し、2028年に正式稼働する見通しとなった。

●安川電機、新工場の納入式実施【24日】

安川電機は、コチェウイェの既存工場に隣接する2つの新工場の礎石を据えた。コスレル安川欧州ロボティクス社長は、3,200万ユーロの投資により、安川電機はヨーロッパ、中東、アフリカでの活動を拡大すると述べた。安川電機はこのプロジェクトの一環として、2025年までに欧州のロボット配送センターと、ロボットシステムのエンジニアリングおよび生産のための新しい近代的な施設を建設する予定である。

●コペル港、化石燃料から脱却へ【24日】

コペル港は、1万5,000平方メートルのパネルを備えた3.3MWの太陽光発電所を新設した。この280万ユーロの投資は、自然エネルギーの利用を拡大する1億ユーロ以上の大規模な投資サイクルの一部である。

●スロベニアの税負担はOECDで7番目【25日】

スロベニアで平均賃金を稼ぐ一人の労働者に対して雇用主と従業員が支払う税金と社会保障負担金の合計割合は、2023年に43.3%に達し、2022年から0.43ポイント上昇したことが、OECDの最新の報告書で明らかになった。スロベニアはOECD加盟国38か国の中で7番目に高い負担割合であった(スロベニアより高いのは、ベルギー、ドイツ、オーストリア、フランス、イタリア、フィンランド)。

●コペル港への主要道路の請負業者決定【26日】

国営高速道路管理会社DARSは、コペル郊外の11.4キロメートルのセルミン道路建設のため、建設会社CPKとコレクトールCPGを指名した。プロジェクト予算は940万ユーロで、コペル港との交通接続を改善することを目的とし、2026年に完成する予定である。

●Gen-II社、5,000万ユーロ相当のグリーンボンドを発行【26日】

エネルギー会社Gen-IIは、2026年までに約1億ユーロを投じる予定のグリーントランジションプロジェクトに資金を供給するため、年利5.20%の5年物グリーンボンドを5,000万ユーロ分発行した。同債券は当初一部の投資家を対象に募集され、最終的な発行額を上回る1億1,200万ユーロ分の買いが寄せられた。

●3月の調査失業率【26日】

統計局のデータによると、3月の調査失業率は3.1%で、前月比0.1ポイント、前年同月比0.6ポイント低下した。統計局の推計によると、3月の失業者数は約3万2千人で、53%が男性、47%が女性であった。

●一人当たり平均所得が増加【28日】

2022年のスロベニアの1人当たり平均年間総所得は15,990ユーロ、純所得は12,343ユーロとなり、2021年比でそれぞれ9%、10.2%増加した。名目ベースでは、総所得と純所得の増加率は2015年以降で最も高かったが、実質ベースでは、増加率はそれぞれ0.2%と1.2%であった。平均純所得は、12の統計地方すべてで上昇し、中央スロベニア、ゴレンスカ、南東スロベニアの3地方で全国平均を上回り、最も高かったのは北西部クランスカ・ゴラで、15,171ユーロに達し、全国平均を23%上回った。

治安・事件事故

●亡命センター設置計画反対の嘆願書に7千人近くが署名【11日】

クロアチアとの国境オブジェに亡命センターを設置する政府の計画に反対するグループが、反対意見約7千人分の署名を集めた。政府は2月下旬、オブジェとスレディシュチェ・オブ・ドラヴィに亡命センターを設置することを決定したが、両地域の住民グループはこの計画に反対している。両市町村は、政府が地元民に耳を傾けなければ行政裁判所で政府の決定に異議を申し立てるとの意向である。

●ルーマニア人の男、ATMを細工して金を盗む【15日】

45歳のルーマニア国籍の男がATMの取出口に装置を取り付け、現金を引き出す際に機械内に現金を残せるようにした上で、共犯者がその後現金を盗んでいたことが、警察の調べで分かった。男は逮捕され、共犯者は現在行方不明である。リュブリャナ警察総局によると、この2か月の間に2人は同様の事件を少なくとも18件起こし、約3千ユーロを手に入れた疑いが持たれている。警察はまた、これと同種の、接着剤や両面テープでATMの現金取出口に棒を取り付けて現金を投入口に閉じ込める、「キャッシュ・トラッピング」詐欺にも注意を促している。この細工が行われると、ATMで現金を引き出そうとしても現金が取出口から出てこないため、利用者はATMが故障したと思ってその場を離れてしまう。そして犯人はATMに近づき、「罠」を外して不正に金を奪うのである。

●1月から3月にかけて1万人近くの不法移民を摘発【17日】

スロベニアの警察官が今年最初の3か月間で処理した不法移民は合計9,828人で、2023年の同時期と比べて18%増加した。シリア人が大幅に増加し、不法移民全体の3分の1以上を占めており、アフガニスタン人、モロッコ人が続いている。不法な越境の8

3%にあたる8,168件が、ノヴォ・メスト警察署の管轄区域内で記録されている。

●イリリヤ・スポーツセンター建設現場で火災発生【17日】

17日午前3時頃、9月にオープン予定であるリュブリャナのイリリヤ・スポーツセンター工事建設現場で、放火による火災が発生した。警察の調べによると、建物の隣にあった建築資材につけられた火が、その後建物自体に燃え移ったものとみられる。この火災は建物に大きな損害を与えた。この火災以前にも、シシュカ地区ではゴミ箱で数件の火災が発生している。警察は、これらの火災の関連性を捜査するとともに、建設現場の放火犯人を追っている。

●チボリ公園周辺で疾病媒介マダニが大幅増殖【24日】

治療法がなくワクチン接種によってのみ予防できる、非常に重篤で致命的な病気であるダニ媒介性髄膜脳炎のウイルスを媒介するダニの数が平均を上回っているとして、専門家は注意を呼びかけている。今年の冬は暖かく、期間も短かったことが原因とみられる。リュブリャナでも、特にチボリ公園などの公園、リュブリャナ城、運動場などはリスクが高まっており、注意が必要である。

社会・文化・スポーツ

【スポーツ】

●ヤーニャ・ガンブレッド選手がスポーツクライミングワールドカップ柯橋2024で優勝【10日】

中国、柯橋で開催したスポーツクライミングワールドカップシリーズの初戦(ボルダー種目女子)において、東京オリンピックで金メダルを獲得しているヤーニャ・ガンブレッド選手が優勝した。日本勢は、松藤藍夢(まつふじあのん)選手の6位が最高。ヤーニャ・ガンブレッド選手はその後12日～14日に開催されたワールドカップ呉江2024でリード種目でも優勝した。

●スロベニア女子ハンドボールチームがパリ五輪出場権を獲得【15日】

スロベニア女子ハンドボールチームは、予選トーナメントの最終戦でモンテネグロを30:26(14:11)で破り、パリで開催される夏季オリンピックへの切符を初めて手に入れた。

●スロベニアでも聖火リレーがスタート【17日】

2024年パリ・オリンピックの聖火がオリンピアで点火された翌日、スロベニアでも自国の聖火リレーを国内でスタートさせた。スロベニアの聖火は、ポピナツ・スロベニアオリンピック委員会委員長にスロベニアの

オリンピックボート選手であるユアニ・クレメンチッチ選手が同行し、北東部のレンダヴァ市でスタートした。

【生活、その他】

●デロ紙世論調査、スロベニア人はEUの危機対応に不満【12日】

デロ紙が発表した世論調査によると、スロベニア人は新型コロナウイルス感染症のパンデミック、生活費、移民、気候危機など最近の危機に対するEUの対応に相当不満を抱いている。回答結果はまた、スロベニア人が生活費について最も心配していることを示唆している。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282 Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

【領事班からのお知らせ】

●「ジャパン・クラブ」の懇親会:「チボリ・ピクニック」

当地日本人会の「ジャパン・クラブ」が、6月2日(日)午後3時からチボリ公園内カフェにて、懇親会「チボリ・ピクニック」を開催します。この懇親会は、会員でない方のご参加も大歓迎とのことです。

【日時】6月2日(日)午後3時から午後6時まで(雨天決行)

【場所】チボリ公園内カフェ「Č olnarna」

(住所: Cesta 27. aprila 2A, 1000 Ljubljana、電話: 071555108)

【参加費】なし。ただし、飲食物は各自で御注文の上、各自でお支払い願います。

【その他】屋根の下のテラス席が満席になる場合もあり得ます。その場合は、一部の方は芝生の上でグループを作って座って頂くことも想定されますため、芝生に敷くシートをお持ちの方はご持参頂きますようお願いいたします。尚、雨天の場合はテラス席や屋内に全員入れる見込みです。

(ジャパン・クラブからのご案内文)

<https://www.si.emb-japan.go.jp/files/100670595.pdf>

※参加をご希望の方は、5月30日(木)までに、下記担当者までご連絡ください。

本件担当: 福元 (takehiko.fukumoto-2@mofa.go.jp)

●証明のオンライン申請及びクレジットカードによるオンライン決済の開始について

各種証明(一部を除く)のオンライン申請及びこれらの手数料のクレジットカードによるオンライン決済が可能となりました。これまでは、平日の昼間に窓口に来館されて申請を行っていただく必要がございましたが、同日以降は、夜間、休日問わずオンラインで申請いただけますので、是非ご利用ください。詳しくは以下のリンク先をご確認ください。

当館 HP: https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00834.html

●パスポートのオンライン申請と申請手続きの一部変更

パスポートの手続きの一部がオンラインで申請可能となりました。オンライン申請に際しては、在留届が「電子届出化」されている必要があります。詳しくは以下のリンク先をご確認ください。

当館 HP: https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00740.html

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。在留届は、渡航前にオンラインで提出することも可能です。また、住所・連絡先の変更、同居家族の追加など、提出済み在留届の記載事項に変更が生じた場合は「変更届」を、帰国や当館管轄地域外へ転出する場合は「帰国・転出届」を必ずご提出ください。

特に、当館からの重要な連絡が確実に皆様が届くよう、Eメールアドレスや携帯電話番号の変更は速やかに届出をお願いいたします。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●海外に住んでいる人が、外国にいながら国政選挙に投票できる制度を「在外選挙制度」といい、これによる投票を「在外投票」といいます。在外投票ができるのは、日本国籍を持つ18歳以上の有権者で、在外選挙人名簿に登録され、在外選挙人証を持っている人です。在外選挙人証の申請から受け取りまでには通常2か月程度の期間を要しますので、早めの申請を行ってください。

●当地での在留許可取得や在留許可延長手続きの際に必要な警察(犯罪経歴)証明については、申請から交付までに通常約2か月かかります。お手続きに必要な期間をあらかじめ考慮の上、余裕を持って申請を行っていただくようお願いいたします。

●ここがモヤモヤしたり、ざわついたりするときは、相談してみませんか?

外務省は、特定非営利活動法人与連携して海外在住日本人の孤独・孤立対策の支援を行っています。海外にいても、SNSやチャットを使って日本語で相談できます。相談は無料です。

【外務省HP: 孤独・孤立及びそれに付随する問題でお悩みの方へ】

<https://www.anzen.mofa.go.jp/life/info20210707.html>

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

<https://www.anzen.mofa.go.jp/life/info20210707.html>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

【広報文化班からのお知らせ】

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中

当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版（英語音声）を配信しております。

Embassy of Japan in Slovenia – YouTube

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>

●「第12回ジャパン・デー2024」の開催について

日本の祭「第12回ジャパン・デー2024」は以下の要領で開催されます。

○開催予定日：6月15日（土）11時から17時

○会場：開催場所：リュブリャナ市TR3ビル前広場及びTR3ビル屋内

○主催：ジャパン・デー実行委員会

※詳細は、Dan Japonske フェイスブックをご覧ください。

<https://www.facebook.com/DanJaponske/>



Dan Japonske
Sobota, 15. junij 2024

ジャパン・デー2024
2024年6月15日（土）開催！

